8B-2 No.40

年少労働調査資料 第39集

年少者の離職状況調査

昭和32年1月

埼玉婦人少年室
寄贈

労働省婦人少年局

はしがき

中学を卒業して社会への第一歩を踏みだしたばかりの年少者が，就職後短期間で離職することは，年少者本人にとっても，使用者にとってもその影響は少くない。そこで，今回婦人少年局では，主要労働市場地域における，昭和31年3月の中学校卒業者で一旦就職し，且つ離職した者についてその実態を明かにし，これら年少者の保護の施策樹立の参考に資するためこの調査を行った。

対象が年少者であり，且つ，通信調査の方法によったため，その結果は不十分なところも多々あると思われるが，当該問題について，大方の参考になれば幸いである。

労働省婦人少年局

目　次

Ⅰ. 調査実施時期 …… 1
Ⅱ. 調査機関 …… 1
Ⅲ. 調査地域 …… 1
Ⅳ. 調査の対象 …… 1
Ⅴ. 調査の方法 …… 1
Ⅵ. 調査結果 …… 2
i) 調査の対象事業場数及び年少者数 …… 2
ii) 離職状況 …… 3
1. 産業別離職状況 …… 3
2. 規模別離職状況 …… 3
3. 規模別,就職経路別離職状況 …… 4
4. 自他縣別,就職経路別離職状況 …… 4
5. 就業期間別離職状況 …… 4
6. 職種別,希望の有無別離職状況 …… 5
7. 離職時の労働時間 …… 5
8. 離職時の休日の態様 …… 6
9. 離職時の賃金 …… 6
10. 離職事由 …… 6
11. 離職後の感想 …… 9
iii) 再就職状況 …… 10
1. 再就職者 …… 10
2. 再就職者の前職との異同状況 …… 10
3. 再就職者の規模別入職経路 …… 11
4. 再就職者の労働時間 …… 12
5. 再就職者の休日の態様 …… 12
6. 再就職者の賃金 …… 13
7. 再就職者の入職経路別の職場に対する感想 …… 13

ⅳ) 未就職状況 …… 14
1. 未就職者の現況 …… 14
2. 未就職者の就職希望の有無 …… 15
3. 就職を希望しない事由 …… 15
4. 未就職者の求職活動状況 …… 15
5. 未就職者の求職活動の方法 …… 16
6. 求職活動をしない事由 …… 16
ⅴ) むすび …… 16

Ⅵ. 参考資料 …… 18

I. 調査実施時期

昭和31年6月 ～ 10月

II. 調査機関

婦人少年局，公共職業安定所

III. 調査地域

東京都，愛知県，大阪府

IV. 調査の対象

昭和31年3月中学校卒業の新規就職者で退職者として把握されたもの

V. 調査の方法

1. 事業場調査

安定所が昭和31年6月～8月の間に就職後補導のために訪問した事業場，及び7月中の雇用主訪問事業場中，昭和31年3月の中学校卒業者を雇用し，且つそのうち，退職者のあった事業場について所定調査票により調査を実施した。

2. 個人調査

事業場調査により把握された離職年少者に対し，婦人少年局から調査票（質問紙）を送り回答を求めたものである。

Ⅵ. 調査結果

i) 調査の対象事業場数及び年少者数

事業場数は合計798事業場で，うち，東京356，愛知298，大阪144事業場である．その産業別内訳は分類不能の産業を含め産業中分類で37産業にわたり，その大多数は製造業である。なかでも紡織業が最も多く（総事業場の23.7%），続いては機械製造業，金属製品製造業，電気機械器具製造業等である。最も少いのは製造業以外の綜合工事業，石油小売業，道路旅客運送業，道路貨物運送業，対事業所サービス業，その他の修理業各1事業場である．

規模別で最も多いのは10人以上50人未満の297事業場（37.2%）で，最も少いのは10人未満の131事業場（16.4%）である．

これらの事業場に就職した昭和31年3月中学校卒業の新規就職者は13,571名で，うち男子3,641名（26.8%），女子9,930名（73.2%）である。更に産業別には紡織業（52.8%），規模別には100人以上の事業場（68.1%）に就業した者が最も多い．これらの就職者のうち離職したことが判明したものは1,649名（男子745名，女子904名）12.2%で，帰省先や現住所等不明の調査不能を除いた1,084名に対して個人調査を実施し，817名の回答をえた．

ii) 離転状況

1. 産業別離転状況

全産業の平均離転率は12.2%で，性別にみると，女子の9.1%に対し男子は20.5%の高率である。

更に，就転者の多い産業中離転率の高い産業をあげると，金属製品製造業の29.5%を始めとして，才1次金属製品製造業29.4%，機械製造業22.9%，紙及び類似品製造業20.6%，衣服及び身廻品製造業の19.1%等が高く，紡織業，木材及び木製品製造業，化学工業，ガラス及び土石製品製造業等は低率である。

他方，卸売，小売業等のように，把握された就転者数は少いが，離転率では前記の諸産業を上廻わるものもあることが注目される。

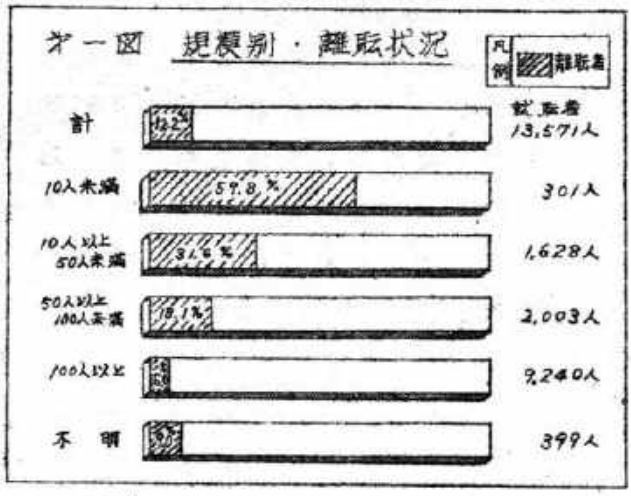
性別にこれをみると，男子においては金属製品，才一次金属，機械，木材及び木製品，輸送用機械器具等の各製造業の離転率がいずれも16%を上廻わっている。

女子では紙及び類似品，衣服及び身廻品，食料品，機械の各製造業の離転率が15%をこえているに対し，紡織業，ガラス及び土石製品製造業，化学工業等は7%以下の低率である。

2. 規模別離転状況

事業規模別の離転率は，規模が小さくなるにつれ高率を示している。即ち，100人以上の大企業では6.0%に過ぎないが，10人未満の小企業では10倍に近い59.8%の高率で著しい差を示している。性別にみると，男子においては小規模ほど高率であるという傾向が更に強い。

才一図　規模別・離転状況



3. 規模別，就職経路別離職状況

離職者個人調査により回答をえた離職者817名（以下全離職者という）の就職経路中最も多いのは，学校の紹介によるもの（49.4％）で，続いて多い安定所の紹介の者を加えると90％が公共機関によるものである。縁故によるものは5.9％で，新聞広告，門前広告等その他の方法によるものは2.5％である。

更に規模別にみると，安定所の紹介により大中企業に就職した者ほど離職するものは少く，反面，縁故により就職した者は，大中企業においては定着率が悪いことが現れている。（第8図参照）

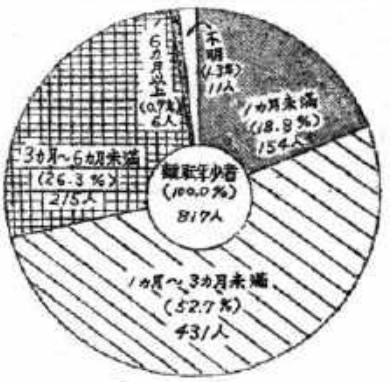
4. 自他県別，就職経路別離職状況

自県内に就職した離職者は393名（全離職者の48.1％）で，その28.2％は安定所の紹介により就職したものであり，また学校の紹介によるものは61.1％で最も多く，縁故7.4％，その他2.8％，不明0.5％となっている。これに対し，他県に就職して離職した422名（全離職者の51.7％）の53.6％は安定所の紹介によるもので，次いで学校の紹介によるものは38.9％，縁故4.5％，その他2.1％，不明0.9となっている。

5. 就業期間別離職状況

「就職後1ヵ月以上3ヵ月未満で離職した者」が全離職者の52.7％で最も多く，続いては「3ヵ月以上6ヵ月未満で離職した者」26.3％，「1ヵ月未満の者」18.8％，「6ヵ月以上」0.7％，不明1.3％であるが，全離職者の71.5％が就職後僅か3ヵ月未満の短期間で職場を離れていることが注目される。性別にみた場合も，それぞれこれと同じ傾向である。

第2図 就業期間別離職状況



6. 職種別，希望の有無別離職状況

就職した仕事が，本人の希望するものであったか否かをみると，全離職者の59.6％が「希望する仕事でなかった」と答えている。これを職種別にみると，事務員，給仕，電話交換手等の書記的職業と，看護婦の自由職業者にあっては，当該職種に就業することを希望していた者の比率が高い。これに反し，販売店員，外交員，売子等の販売的職業や，エレベーターガール，コック見習，食堂給仕，女中等いわゆる対人奉仕や，家事奉仕等の奉仕的職業，及び，工員である製造関係の技能職業，ならびに建設，運輸，通信公益事の非製造技能職業に従事するものは，いずれも希望した職業でなかったというものが60％をこえる。従って，離職した年少者の大部分がいわゆるホワイトカラーへのあこがれが非常に強いとみられるので，年少者の職業に対する知識や，自己の能力に対する認識に助言，援助を与え，その職業選択に十分の満足と自信をもって就業することができるよう，就職前の職業指導を一層徹底させることが望ましい。

7. 離職時の労働時間

(1) 規模別労働時間

離職当時の年少者の労働時間の状態は，離職の理由とも関連するところであるが，全離職者の52.3％は法定の8時間労働であり，残る半数については，9時間労働から12時間労働の長時間労働のものがあるのみならず，更には6.9％が12時間を超える状況である。これを更に規模別にみると，小規模事業場ほど長時間労働であり，特に10人未満の規模において12時間を超えていた者が，27.2％にのぼっている。

(2) 通勤，住込別の労働時間

通勤労働者の68.8％が8時間以下の労働時間であるのに対し，住込労働者では僅かに37.1％に過ぎず，後者がはるかに長時間労働であることが顕著に現れている。

8. 離職時の休日の態様

法定の休日即ち1週1回の休日のものが全離職者の約60%で，その他は，1ヵ月に1回から4回までの者，不定の者，等である。月数回の休日の者の中では2回が最も多く，また就職以来離職時まで休日がないと答えたものが1.6%ある。

これを通勤，住込の別にみると，通勤者の方が週休の比率が高く，住込者では，月2回の休日が多いと共に，全然ないというものも11名あった。

9. 離職時の賃金

全離職者の離職時の賃金を賃金階級別にみると，手取り2,000円未満11.7%，2000円～3,000円未満22.6%，3,000円～4,000円未満19.0%，4,000円～5,000円未満23.1%，5,000円以上7.4%，その他5.8%，不明10.4%となっている。

これを規模別にみると，小規模ほど低賃金であるという傾向が現れており，10人未満の規模では50%強が3,000円未満に過ぎない。更に性別にみても小規模ほど低賃金であるという同様の状態がみられる。

10. 離職事由

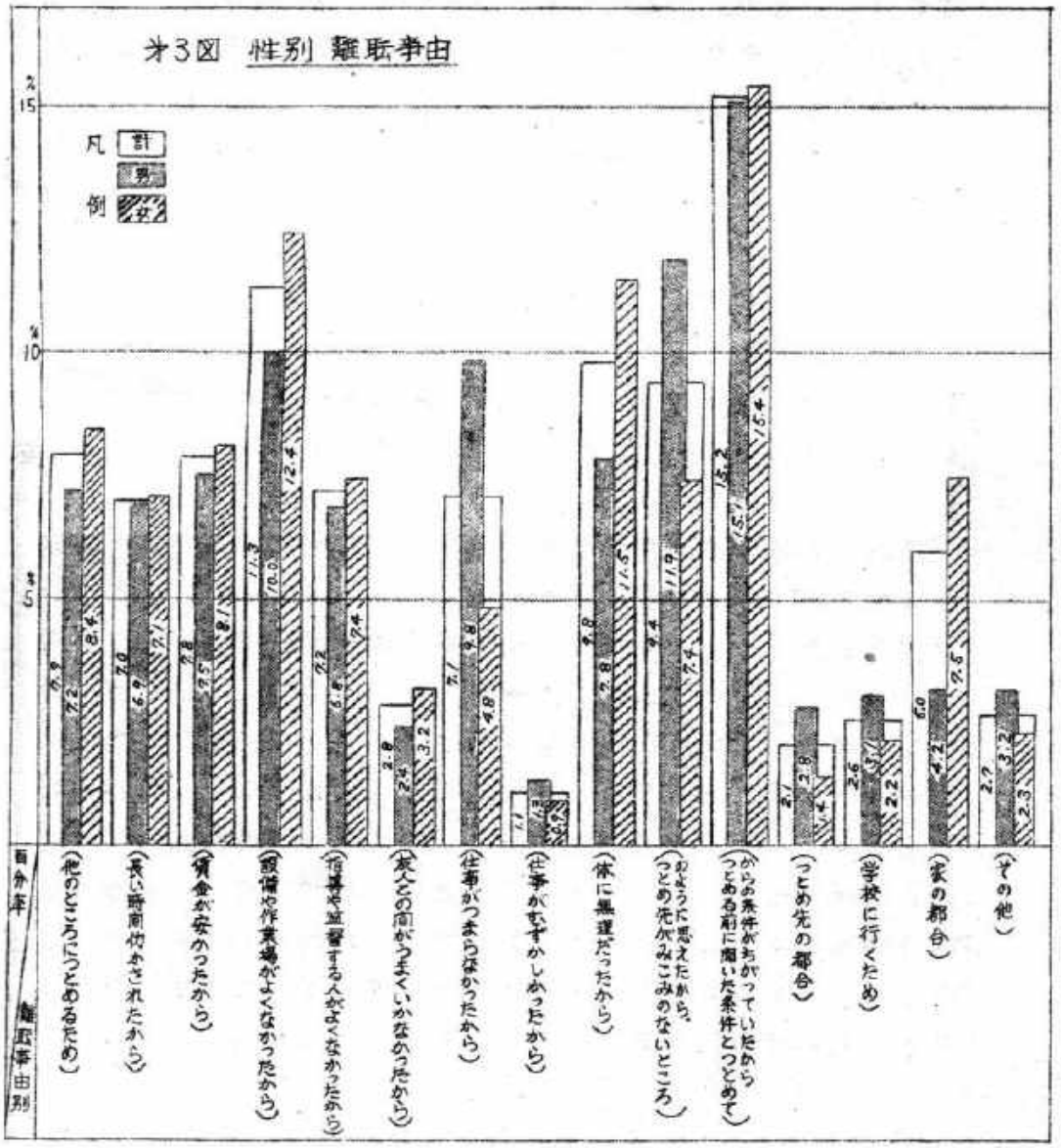
最も多い理由は「勤める前に聞いた條件と勤めてからの條件が違っていたから」15.2%で，次いで「設備や作業場がよくなかったから」11.3%，「体に無理だったから」9.8%，「勤先がみこみのないところのように思えたから」9.4%等である。

性別にこれをみると，男子の最も多いのは「勤める前に聞いた條件と勤めてからの條件が違っていたから」の15.1%で，続いては「勤先がみこみのないところのように思えたから」，「設備や作業場がよくなかったから」，「仕事がつまらなかったから」等で就職前後の労働條件の相違からくる勤労意欲の減退と共に，将来性のある安定した職場や，興味と意慾をもって働きうる仕事を求める強い希望があらはれている。

女子では「勤める前に聞いた条件と勤めてからの条件が違っ

ていたから」が最も多い（15.4％）のは男子同様であるが，次いでは，「設備や作業場がよくなかったから」，「体に無理だったから」等職場環境や，職場施設の不良不備，労働過重，業務不適等から退職するものが多い．

又女子で「家の都合のため」と答えたものは男子の1.7倍に当り，「仕事がつまらなかったから」と答えた男子は女子の2倍で，男女の特質の一端がうかがえる．



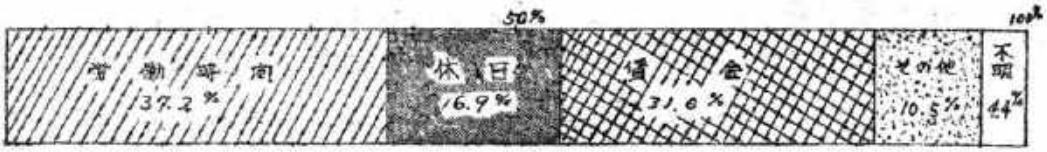
次に規模別にこれをみると，いずれの規模を通じても，就職前後の労働条件の相違や，設備，作業場に対する不満が高位を占めているが，このことは，年少者の敏感な感受性や，職場知識，経験の不足からくる強い反応の現れである反面，職場の現状或いは求人時の労働条件の提示に，劣悪，不備な点が未だ非常に多いことを示している。

又，長時間労働や，指導監督者に対する不満，勤先の見込不安等の理由は中小企業に高率であり，更に100人以上の大企業においても，業務不適や作業方法の不適からくる「体に無理だったから」という理由や，低賃金，転職のため等という理由が高率であることは労務管理上一考を要するところである。

更に又，通勤，住込の別では，住込者の場合は，長時間労働や，職場環境，施設の不備，不良，寄宿舎での友人との共同生活，職場や仕事えの順応のおくれからくる精神的，肉体的疲労から離職する場合が多く，他方，通勤者においては，低賃金や，勤先の見込不安，監督指導者に対する不満，仕事に対する不満，通学等の理由によって比較的容易に，よりよいところを求めて離，転職するものが多いことが現れている。

なお，離職事由中最も高率である就職前後の労働条件の相違を労働時間，休日，賃金，その他に区分してみると，最も多いのは労働時間の37.2％で，次いで多い賃金の31.0％と共に両者がこの大半を占めている。具体的には労働時間については，就業前に聞いた労働時間よりも少くは30分，多くは数時間にわたる超過勤務のあることをあげており，賃金では，日額10円の差でも年少者は問題としており，更に諸種の控除に対する十分の説明や知識が与えられないために，当初に聞いた金額を手取り額と感違いした結果のものも多いと思われる。性別には，男子では賃金，女子では労働時間や休日労働，その他の比率が，女子又は男子のそれぞれに対し，高率である。

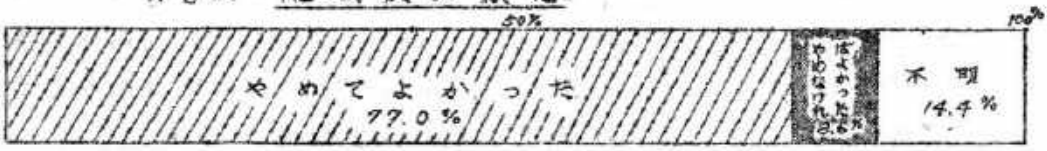
第4図　就職前と就職後の労働条件の相違



11. 離職後の感想

全離職者の77%が「やめてよかった」と答えており，「やめなければよかった」と悔んでいるものは8.6%に過ぎない．性別にみると「やめなければよかった」と思うものは女子にやや多い．

第5図　離職後の感想

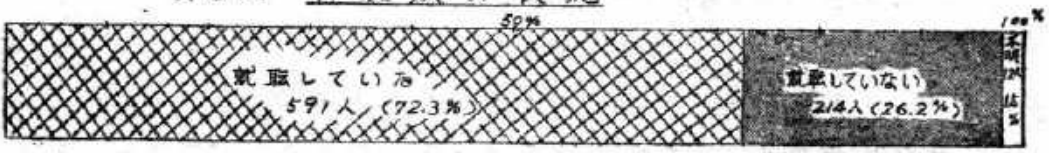


iii) 再就職状況

1. 再就職者

全離職者817名の72.3%が再就職しており，就職していない者26.2%，不明1.5%である。性別では男子の再就職率は女子のそれより高くなっている。

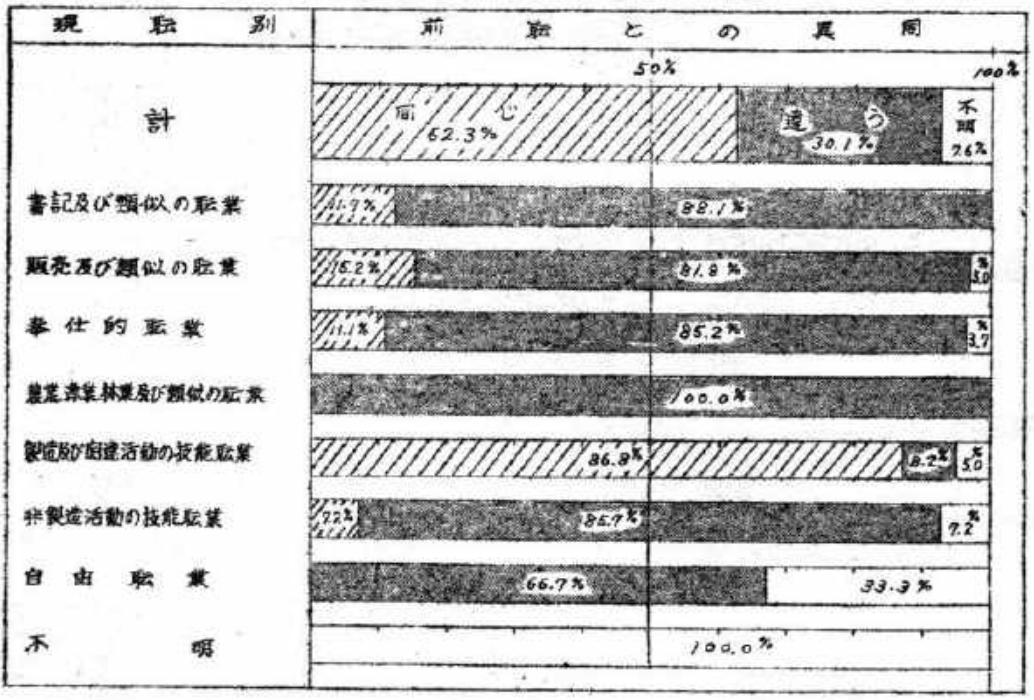
第6図 再就職の状況



2 前職との異同状況

製造工場等の工員以外の職業では，前職と異なる職業に再就職したものが圧倒的に多い。即ち，再就職者の⅔が前職以外の職業に働いており，再就職時の職業選択の移動のはげしさや，前職と同じ職業に就業することの困難さを現している。

第7図 職種別再就職者の前職との異同

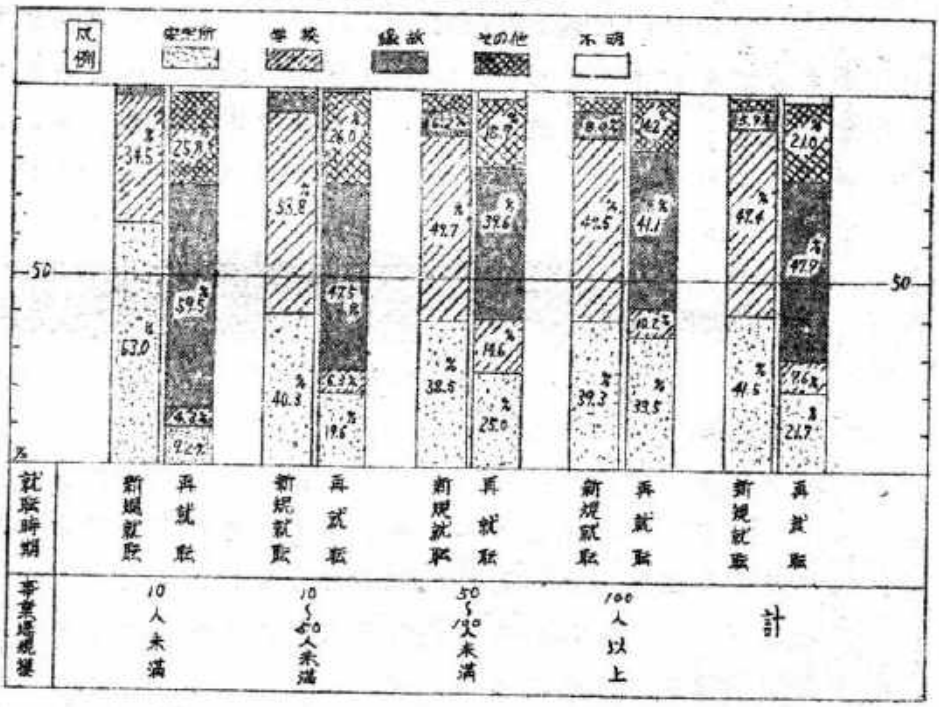


3. 再就職者の規模別入職経路

全規模での再就職経路中最も多いのは縁故によるもので約50%を占め、その他の経路と合わせて70%が公共機関によらないで再就職しており、新規就職時、安定所及び学校の紹介が90%強を示したのとは著しい対比をなしている。これを規模別にみると、小規模ほど縁故やその他の経路による再就職が多く、反対に大規模に就職した者ほど安定所や学校を通して再就職している率が高く、全再就職者の73.9%が新規就職時と異なる入職経路によって再就職している。

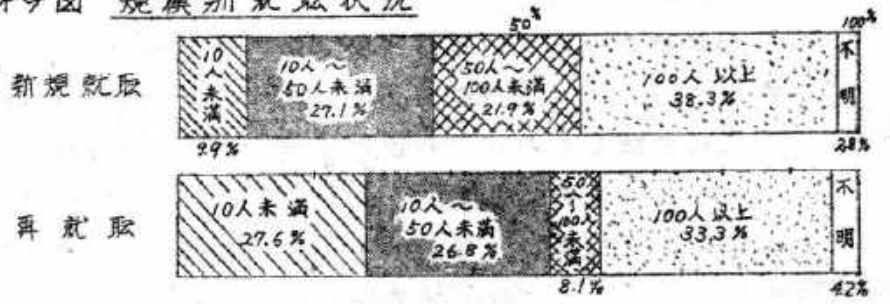
又、再就職者の規模別就業構成比は、10人未満27.6%、10～50人未満26.8%、50人～100人未満8.1%、100人以上33.3%、不明4.2%で、新規就職時と比べ、10人未満の小規模事業場への就業率が著しく高率となり、50人以上の規模への就業率は低くなっている。

第8図 規模別入職経路

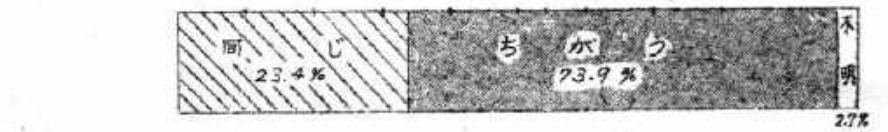


(注) 新規就職は離職者(調査対象817名)に関するもののみである。第9図も同じ。

第9図 規模別就職状況



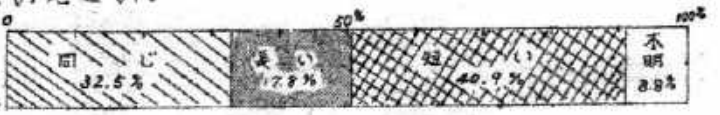
第10図 入職経路の異同



4. 再就職者の労働時間

さきに離職時の労働時間が長く、就職前と就職後の労働条件の相違のうち労働時間に関する比率が最も高く、且つ長時間労働を退職理由とするものが多かったことをあげたが、再就職時にこの問題はどのように解決されているであろうか。即ち、当初に比べ短いというものが40.9%の最高で、次いで同じ者32.5%、かえって長くなったもの17.8%となり、総体的には好転した結果となっているが、離職当時の法定時間内就業者が50%にしか過ぎなかったことを考え合わせると、個々には必ずしも十分によくなったとはいえない。

第11図 労働時間の異同



5. 再就職者の休日の態様

全離職者の新規就職時において、週休制であったものは約60%に過ぎず、特に住込者では低率であったが、再就職時の休日の態様が、同じというものは53.1%、増した20.5%、減った18.6%となっている。このことから再就職によって休日の問題は労働時間ほどには好転していない。

第12図 休日の態様の異同

6. 再就職者の賃金

全離職者の新規就職時の賃金階級構成比率中最も高いのは4,000円～5,000円未満の23.1％で，続いて多い2,000円～3,000円未満の22.6％，3,000円～4,000円未満の19.0％と共に全離職者の65％が2,000円～5000円の手取りであったが再就職によって前よりも高いという者50.1％，安いという者17.6％，同じ者は7.1％である。従って，賃金が安いことを離職事由とした7.8％の者は，より高い賃金を求めて再就職しえたと思われるが，再就職によってかえって前よりも低くなった者が少数あることは見逃せない点である。

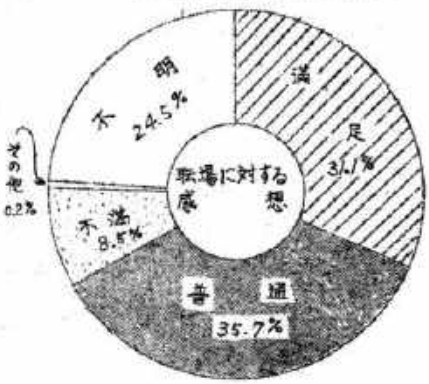
第13図
1ヵ月の手取り額の異同

7. 再就職者の入職経路別，性別職場に対する感想

全再就職者の35.7％は現在の職場に対して不満も満足も感じない普通の状態である。

離職原因が満され，或いはよりよい他の条件によって現在に満足している者は31.1％，不満である者8.5％，その他0.2％であるが，この他態度不明のものが24.5％の高率を占めている。入職経路別にこれをみると，縁故やその他の経路で入職した者の満足，不満の度が安定所や学校の経路によるものの比率より高い。これに対し，安定所や学校の経路によるものは普通の者が多い。性別では男子の方が，満足と不満の者の比率が女子に比して高く，女子は普通と答えている者が最も多い。

第14図 職場に対する感想

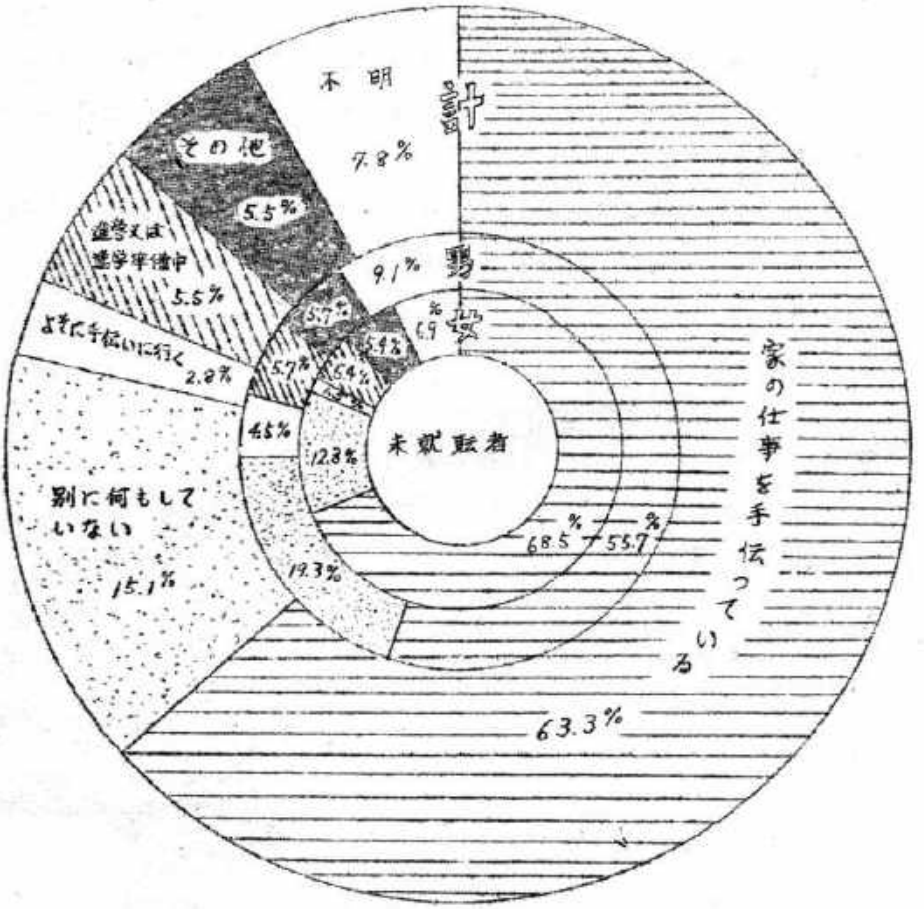


IV) 未就職状況

1. 未就職者の現況

全離職者の26.2％（214名）を占める未就職者の63.3％は家の仕事（家業又は家事）を手伝っており，別に何もしていない15.1％，進学又は進学の準備中，及びその他が各々5.5％，よその手伝いをしている2.8％，不明7.8％という状況である。性別では男子が女子に比し別に何もしていない者や，他家の手伝いをしているものの比率が高く，これに対し女子は家の仕事を手伝っているものの比率が高くなっている。その他は洋裁学習，療養中の者である。

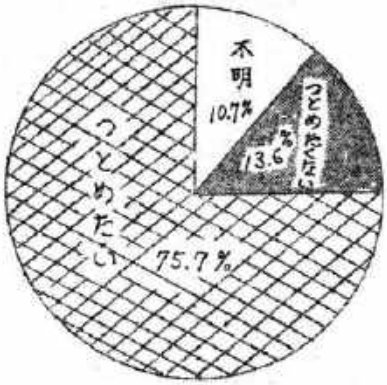
第15図　未就職者の現況



2. 未就職者の就職希望の有無

未就職者の75.7％は再びつとめることを希望しており，希望しないものは13.6％に過ぎず，特に就職希望者は男子の方がやや高い。

第16図 就職希望の有無別未就職者の状況



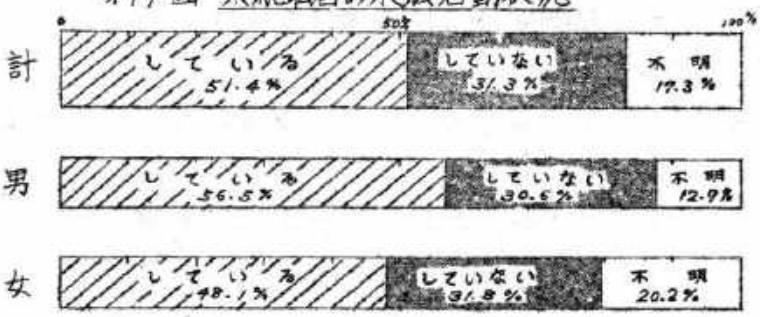
3. 就職を希望しない事由

就職を希望しない事由の中で最も多いのは「進学のため」8名で男子に多く，続いては「家の仕事があるから」6名でこれは女子に多い。次いで「身体が悪いから」，「洋裁を習いたいから」等の他に「会社はいいことをいって後で悪いから」，「前の会社のようなところはいやだから」，「つらいから」，「団体生活が嫌だから」といったような理由もあげられている。

4. 未就職者の求職活動状況

未就職者の51.4％が求職活動をしており，さきの就職希望者75.7％を下廻っている。更に求職活動をしない者は31.3％で，不明17.3％となっているが，求職活動をしている者の比率は男子の方が高い。

第17図 未就職者の求職活動状況



5. 未就職者の求職活動の方法

求職活動をしている者110名を方法別にみると，最も多いのが知人に依頼している52.3％で，次いでは，公共職業安定所に依頼18.8％，近親者に依頼 6.3％，教師に依頼，親戚に依頼各4.7％，その他となっており，知人，友人，近親，親戚の者等への依存度が高く，安定所は余り利用されていない。

6. 求職活動をしない事由

求職活動をしていない者の事由の中で最も多いのは家の都合によるもので（32.8％），その他，勤務先がきまっているから，病気のため，学校に行っているから，体が弱いから，いま就職の意志がない等で，主として就職意志のない者，或は就職できない事情にある者，既に再就職先が決定している者であるが，適職がみつからない，探す方法をしらない，始めての就職に失敗したのでこわい，働くところがないと思って探がさない等のように就職意志と能力を持ち，就職斡旋の必要のある者が10％みられる。

V) むすび

以上の調査結果について主な点をまとめると次の通りである。

(1) 平均離職率は12.2％で，性別では男子の方が高率である。

(2) 産業別には，機械器具工業，金属工業等年少者の雇用部門として大きな比率を占める産業の離職率が高く，また近年就業者の増加しつつある商業においても高率を示している。

(3) 規模別には，年少労働者の占める比率の高い中小企業ほど，離職率は逆に高率となっている。

(4) 全離職者の71.5％が就職後僅か3ヵ月未満の短期間で離職している。

(5) 全離職者の59.6％が本人の希望しない仕事に就いており，特にこれは事務員等の書記的職業以外の職業に就業したものに著しい。

(6) 主な離職事由は「勤める前に聞いた条件と勤めてからの条

件が違っていたから」，「設備や作業場がよくなかったから」，「体に無理だったから」，「勤先が見込のないところのように思えたから」等で，最も比率の高い就職前後の労働条件の相違の主たる事項は労働時間と賃金であり，中小企業ほど高率である。

(7) 全離職者の72.3％は調査時において再就職しており，且つ中小企業への就職者が多くなり，更に30％は前職と異なる職業に就業しているが，特にこれは製造的技能職業（製造工場等の工員）以外の職業に就いていたものに多い。

(8) 再就職者の50％は縁故就職によるもので，特に中小企業に就職したものに多い。

(9) 再就職者の離職時の労働時間，休日，賃金はいずれも劣悪であるが，再就職によって労働時間と賃金は幾分好転している。

(10) 未就職者の63.3％は家業，家事に従事しており，75.7％は再就職を希望しているが，求職活動の方法は殆んどが知人，友人，近親，親戚等に依頼している状態で，安定所の利用度は少い。

(11) 以上のことから年少者に対しては，就職前後の職業指導の一層の充実強正を期し，職業の選択，斡旋，就職先への適応の援助，指導によりその定着性を高めるとともに，離職した再就職希望者に対しては，迅速適切な職業斡旋を図ることが望ましい。又使用者に対しては，求人時の指導，労働条件の維持改善のための監督指導等に対する一層の強化徹底を図り，更には心身の発育期にある年少者の特性に即応した労務管理の研究，配慮についての強力な啓発指導が必要である。そして，これらのことは我国の産業構造上圧倒的に多く，又近年年少者の就業が増加しつつある中小企業にとって特に緊要であると考えられる。

Ⅷ 参考資料

離転年少者の質疑，意見

今回の調査に当り，調査票と同封して，離転年少者よりいろいろな質疑や依頼，そして自主的な意見がよせられた。

質疑，依頼は

イ．進学時に定時制通学と転業選択について

ロ．教師等特定の転業に進む場合の方法について

ハ．再就転先斡旋について

ニ．離転先からの賃金，退職金，貯金，私物等の受給，返還について

ホ．婦人少年局，安定所等の機能や所在地について

ヘ．調査対象として抽出された経緯について

等であり，離転後に残された問題や，相談を必要とすることがらの一端が現われており，係では，調査と併行して，これらひとつひとつに回答した。

次に，年少者の手紙のうちから，感想や意見の一部を抜萃紹介する。（原文のまま）

○　男（東京）メリヤス工場離転―他業出身―

僕は工場をやめましたが，今年は殆んどがみんなやめてほかへ移ったりしました。

これというのも，学校の先生が，僕達の希望も余り聞かないで，ただたくさん就転させて，学校の成績をあげるために勝手に僕達の勤める工場をきめてしまったのです。ほんとうはほかの電気のほうを希望しようと思いましたが，先生が，お前は眼が悪いからだめだといいます。メリヤス工場に，僕ともう1人の人と試験に行きました。試験といっても面接だけで終り，よかったらくるようにといわれました。12月の18日で学校では就転が一番早かったのです。先生は「今の世の中は就転難で，会社等はなかなか入れないから，今入ってづつと勤めろ」とそんなことばかり言っていました。だから僕達も早く勤めたい，

勤めさえすればもういいんだと思いメリヤス工場へ行くようになりました。その時先生は、給料は月に4,300円といったきりで、あと労働時間も、休日も全然おしえてくれませんでした。又、僕もうれしくてそういうことも聞きませんでした。12月の冬休みの時に、会社にこいといわれ1週間行きました。その時は、1日140円くれて、交通費も1日90円づつくれました。日曜も休みでした。

しかし卒業してから行きますと、休みは月に2回、毎日8時から6時まで働いて、4,700円くれて、交通費は全然くれません。交通費だけでも1カ月2,000円以上かかるのです。今はとうてい通えさせなくなってやめました。もしそこえ勤めていても、将来のことは、向うで保証してくれるかどうかわかりません。そこで働いて世帯をもっている人が、70人のうち、3人しかおりません。あとは16,7ぐらいの女ばかしです。家の人もそれではしようがないからやめろと言いましたので、僕もやめる気でいたのでやめました。もう1人の人は、僕より1カ月早くやめましたが、その時先生に言ったら、先生はわけも聞かずにおこっています。もっと先生方が考えてくれれば良かったと思います。

○　男（東京）メリヤス工場離職 ― 他県出身 ―

私はいろいろのことで会社をやめました。

第1に、食糧が悪かったことです。

第2に、入社前の約束と、約束が違っていたことです。

第3に、中小企業の工場に監督が3人もいたことです。いろいろありますが、このくらいにしておいて、

第1のことは「悪い」というのはスエタごはんを食べさせたことと、オジヤを食べさせたことです。朝はろくなオカヅがないので、毎日毎日、しようゆをかけて食べていました。

第2は全然、約束が違うのですから話になりません。

第3に監督が3人もいたのです。1人は奥さん、2人は社長、

3人は若婦人とそれと1人娘がいるのです。ですから4人も監督がいたのです。

群馬県から、今年ある市で中学生が約50人東京へ入社したが、全部帰ったということが新聞に出ていたが、これを考えますと、東京の人は、他県の人をだまして安く使うということを考えているのですね。このようなことでは今後使うことができませんから、労働省でもよく調べて下さい。私と東京へ12人ほど行ったが、やめた人は3人いますし、やめると言う人が6人もいるのです。このようでは、私は二度と東京へ出て働きたくない。

○　女（愛知）土石製品製造工場離職 ― 自県出身 ―

私は学校の紹介により、ある人形会社にゆきましたが、間もなく母の病気のために帰りました。その会社に行く前は、「瀬戸で一番よいといってもいいくらいの所だ」とおっしゃいましたが、行ってみると全然ちがっていました。私も又、家にいても仕事がありませんので、又安定所に申込んでおきました。そしてつい先日、愛知県の○○紡に合格してゆくようになりました。こんどは、自分で希望していた紡績ですので、しっかりやりたいと思っております。

○　男　（愛知）ミシン部品工場離職 ― 他県出身 ―

私はお願いします。皆様の力で、ごはんの時に、そなえ物みたいのようにじろじろみたり、家族と一緒に6畳の部屋に7人もねかすような、かわいそうなたいぐうをする製作所をなくするようお願い致します。

○　女（愛知）紡織工場離職 ― 他県出身 ―

私は、愛知の工場を退社するつもりではありませんでしたが、とても体が続きませんでしたので、従姉の世話でこちらへ入社させて頂いた訳です。友達の便りによりますと、今は朝6時から、夜8時まで働いているそうです。皆様のお力で、少しでも

よくなるようにお願い致します。

○　男（大阪）機械器具工場離職 ― 他県出身 ―

僕は安定所からいきましたが，学校では，「そこは大きいし，手取り5,000円ももらうところがどこにある」といってくれました。又僕は，そのプリントに，モーター部品製作と書いてあり，父母もモーターも作っているだろうと言うのでいってみました。すると，鉄板に穴をあけるので，これで，もしつぶれれば，あとでモーターをおぼえるにもどおする。

２０才になって又１年でやりなおすとこまると思い，早くやめた方がよいと思ってやめました。

GAa1

労働省婦人少年局

館内

女性と仕事の未来館

00763045

31. 2. 28